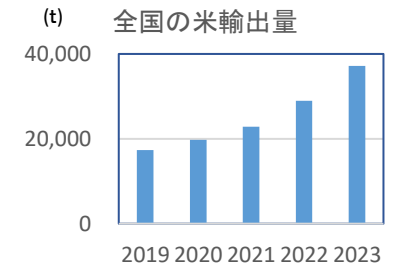


事業名：三重の米輸出促進事業（令和7年度：新規）

背景

- ・ 全国の米の需要量（消費量）は、1年あたり10万トン減少することが予測され、需要に応じた生産を行うため主食用米以外の麦、大豆、飼料用米、新市場開拓用米などの作付に転換されています。
- ・ このような中、全国の米の輸出量は、日本食ブーム、円安の影響等により昨年度と比較して約30%増加しているところであり、輸出の取組を行う大きなチャンスとなっている。



目的

- ・ 生産面においては、輸出米は食味より単価が重視されることから、所得を拡大するためには、単収（10aあたりの生産量）を増加させる必要がある。
- ・ 流通においては、精米での輸送が基本となっているほか、コスト面から、温度管理を行わない通常コンテナを使った船便で輸送しており、赤道付近を通過することによる高温で米の品質低下が課題となっている。
- ・ このことから、単収の向上に向けて、品種の選定や栽培技術の確立に取り組むほか、高温状態における米の品質保持を可能とする輸送方法を実証することを目的とする。

取組内容

①輸出を目指す米生産技術等確立事業

単収の向上に向けて、県農業研究所にて品種（大粒かつ多収）の選定試験及び多肥条件での栽培試験を行う。
また、現地ほ場でも、生産量を高めるための技術の実証試験を行う。

- 【内訳】
- ・ 多収品種（5品種）の肥培試験の実施
 - ・ 輸出米生産者の栽培品種での多収技術実証

②海外輸出における米の品質保持に係る実証事業

輸送時の高温による米の品質低下を防ぐため、品質保持を可能にする輸送方法の実証試験として、断熱カバーを用いた輸送試験及び現地精米と精米出荷の品質に及ぼす影響を確認する。

- 【内訳】
- ・ 断熱カバー輸送試験
 - ・ 精米試験